

ちょっと道德

庭坂小学校
道德便り

No.8

平成27年10月30日(金)

ちょっと紹介、5の1の授業！

10月29日(木)3校時。5年1組の道德の授業をご紹介します。
「ショッピングセンターで、幼い孫が崩してしまった店のダンボールを、その子のおばあさんに代わって、わたしと友達の友子が整理する。しかし、事情を知らない店員に二人は叱られてしまう。二人は、むしゃくしゃした気持ちになるが、最後まで片付けをした。」という話でした。



- ・5年1組
- ・指導者
高野真祐美
- ・主題
「困った人の身になって」
- ・資料
「くずれ落ちたダンボール箱」(東京書籍)

←場面絵を見ながら、その時の気持ちを話し合っているところ



手伝ってよかったのか、揺れ動く「わたし」の気持ちを話し合いました。子供たちは、「よかった」「叱られたけどよかった」「しなければよかった」と大きく3つの意見に分かれました。自分の考えと近いところにネームプレートをはり、それをもとに話し合いました。

話の続きは・・・

「後日、事情が分かった店員から謝りの手紙が学校に届き、二人の心は明るくなった。」

親切が伝わったよさを子供たちは、ほっとした様子で聞いていました。そして、授業の最後に、目を閉じて、先生の朗読する詩を聞きました。その詩をご紹介します。



「行為の意味」

宮澤 章二

あなたの「こころ」はどんな形ですか
と、人に聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれど本当に見えないのであろうか

確かに「こころ」は誰にも見えない
けれど「こころづかい」は見えるのだ
それは人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の「思い」は見えない
けれど「思いやり」は誰にでも見える
それも人に対する積極的な行為だから

あたたかい心があたたかい行為になり
やさしい思いがやさしい行為になるとき
「心」も「思い」も初めて美しく生きる

それは 人が人として生きることだ

